

2022. 7. 7

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

**歴史都市防災研究所・文学部、洛星高等学校との連携企画
地理的見方・考え方で「人文学的な防災研究の最先端」を学ぶ授業を実施**

日 時：2022年7月19日（火）14:40～16:00

場 所：立命館大学衣笠キャンパス

立命館大学文学部の村中亮夫准教授は、学校法人ヴィアートル学園洛星高等学校（京都市北区、校長：小田恵）と連携し、本学衣笠キャンパスにおいて、洛星高等学校1年生11人を対象に、地理的見方・考え方で人文学的な防災研究の最先端を学ぶ授業を7月19日（火）に実施します。

本学の文学部には地域研究学域があり、歴史都市防災研究所と連携し、最先端の地理学・地理観光的な学問知を生み出す研究活動や、地理的見方・考え方に基づいて地域課題の解決に寄与する人材を育成しています。

地理学は、自然現象とともに、社会や経済、文化など、さまざまな人間の営みを含む、地表面上に現れる事象を空間的に捉えて分析・検討する学問であり、自然界と人間社会の双方に関連する現代的な課題（たとえば自然現象が人間社会へ与える負の影響を防御するための防災研究）に深く関わっています。

また、高等学校では、2022年度から、新学習指導要領により新科目「地理総合」が必修化され、そのうちの柱のひとつに「防災」が掲げられるなど、高校教育の現場においても防災教育の重要性が高まっています。

本企画では、歴史都市防災研究所の研究メンバーで、地理学の立場から防災・環境研究を行う村中准教授が、岩手県大船渡市で災害復興支援活動を続ける洛星高等学校の1年生11人に対して、Google マップや Google ストリートビュー、地理院地図などの「WebGIS」（地理情報システム）を活用しながら、三陸の津波地名（津波に由来する地名）を中心に災害文化をテーマとした授業を実施します。生徒らは、本企画で中長期的な視点で防災を考える有用性や意義を体感したうえで、実際に岩手県へ赴き、ボランティア活動をする予定です。

記

日 時：2022年7月19日（火）14:40～16:00

場 所：立命館大学衣笠キャンパス 有心館 YS302

内 容：「【防災研究の最前線】古地名で読み解く災害文化—岩手県三陸沿岸地域—」

・明治時代の古文書に記載された地名（古地名）から防災を考える

・Google マップなどから津波由来の古地名の真正性を考える

・WebGIS を通して災害とともにある人間の暮らしを考える

講 師：立命館大学 文学部 准教授 村中 亮夫（むらなか あきお）

【専門：地理学、環境・災害研究、GIS】

※ご取材いただける場合は、7月19日（火）12時までに問い合わせ先までご連絡ください。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当：遠藤 TEL. 075-813-8300

別紙

■本企画の趣旨

今回使用する教材の原典『巖手沿岸古地名考 全』は、150 年以上(明治期)も前の局地的な地名が書かれている書物で、この地名が現代まで受け継がれているのか、村中准教授を中心に調査を行いました(村中亮夫ほか(2017)「津波地名やその由来は継承されるのか?」『地理科学』72(4))。

本企画は、この学問的な調査の一端を、高校生が臨場感をもって追体験できるものとなっています。「実社会と結びつきにくい」と誤解されることも多い人文地理学を含めた人文学が、地域防災(特にソフト面での防災)を考えるうえで欠かせないこと、そして大学での最先端の研究を高校現場で実装し、生徒に高校での学びが、研究と実社会の地域防災に、どのように繋がるのかを実感してもらいながら、学びへの興味・関心を広げるきっかけとなることを期待しています。

ご参考:『巖手沿岸古地名考』山奈宗真 [編] (1897)

<https://www.dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8664054>

※原典『巖手沿岸古地名考 全』は、「国立国会図書館デジタルコレクション」より閲覧いただけます。

■歴史都市防災研究所について

歴史都市を守る「文化遺産防災学」の推進拠点として、人文社会分野である文化遺産防災と、理工学分野である歴史都市防災を連携・融合させた総合的研究を展開しています。

アーカイブ等の情報技術を駆使する立命館大学アート・リサーチセンターと共同しながら、国内外の地域社会や地方自治体をはじめとする産官学、NPO や NGO と連携した研究プロジェクトが集うプラットフォームを構築しています。文化遺産防災学の発展、文化的価値を継承する地域知と伝統知の蓄積、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と将来の研究発展を担う若手研究者の輩出に取り組んでいます。

<https://r-dmuch.jp/>

■文学部地域研究学域について

地理学専攻と地域観光学専攻の 2 専攻で構成されます。地理学・地域観光学の学問領域から「地域」を焦点に当て、さまざまな現象を空間的な観点から明らかにし、多角的な研究視点・手法を交えることで、現代的な諸問題に取り組むことを目指します。GIS などのデジタル技術を活用し、文学部全体における教育・研究の DX 推進にも寄与しています。

<http://www.ritsumei.ac.jp/lt/area/>

■学校法人ヴィアートル学園 洛星高等学校について

1951 年、ヴィアートル教育修道会によって設立されたカトリック・ミッション・スクール。キリスト教カトリック精神に基づく“全人教育”を教育方針とし、授業やクラブ活動、学校行事、宗教行事などを通じて、心、頭、体のバランスの取れた人材を育成します。

東日本大震災発生以降、2012 年から、生徒の有志を募り、日本のカトリック教会がボランティア活動を行う岩手県大船渡市の「カリタス大船渡ベース」で、実際の災害復興支援を含めた、漁業・農業の支援・補助や、市民との交流(お茶っこ)を行う活動を続けています。

<https://www.rakusei.ac.jp/>